

人間植物関係学特論演習（二）（2単位）

担当者氏名

山口裕文

◆学習・教育目標

植物と人間との関係の歴史的発展過程と現代に生かすべき植物との関わりが持つ福祉機能の知識とその利用のための技術理論を具体的に理解するために、観賞植物、景観植物、雑草などの自然景観植物、食用植物、香料香辛料植物、儀礼植物など、人々の生活に密接に関わる多様な植物を癒しや安らぎ、健康促進や生活の質の向上への手法と環境修復や保全問題を踏まえて植物の活用における問題を討論する。具体的には、植物のもつ癒しやすさ、健康促進や生活の質の向上の効用を文献調査と併せて討論し、人間植物関係学特論で学んだ理論と技法を深く理解する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

人間植物関係学 _____ 園芸学 _____ 民族植物学 _____ 植物文化多様性 _____
 数量化理論 _____ 調査解析法 _____

◆授業の進行等について

| | テーマ | 内容 | 授業のねらいまたは準備しておく事項 |
|----|--------------------|------------------------------|--|
| 1 | 人間・植物の関係性の発展歴史 | 人間と植物の関係性の発展過程、競争・共生・共存関係の歴史 | それぞれのテーマについて解析評価技術に関する問題を提起し、討議検証する。どのような人間植物関係性の活用と対策が考えられるか、教員と院生相互で考察して技法の整理と一般化を試みる。 |
| 2 | 自然景観・人工景観による福祉 | 森林セラピーとあぜ道のもつ癒し、草遊び | |
| 3 | 観賞・庭園・景観植物による福祉 | 花、みどり、ガーデニング | |
| 4 | ナルコティクス植物による福祉 | 嗜好料、飲料、陶酔 | |
| 5 | 香源植物による福祉 | 香料香辛料植物、東西香り文化 | |
| 6 | 民家庭園とホームガーデンにおける福祉 | 緑陰樹、落葉、果物の季節 | |
| 7 | 儀礼・宗教植物による福祉 | 仏花、祝花、供花の多様性 | |
| 8 | 植物活用の地域性 | 癒し植物の原産地での発展 | |
| 9 | 植物活用の場の設計 | 住環境における生活文化活用の計画 | |
| 10 | 植物活用の評価原理 | 植物活用技法の評価手法と原理 | |
| 11 | 植物活用の発展 | 現代社会における発展事例 | |
| 12 | 植物活用の地域複合 | 癒し植物の地域的集中、花文化センター | |
| 13 | 植物活用の文化複合 | 植物活用要素の体系と高度化 | |
| 14 | 植物活用の連携 | 自然活用や動物活用との連携 | |
| 15 | 総合討論 | 総括 | |

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

課題にそって文献検索し、読解して、各自で資料を作成しておく

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

バイオセラピー学入門（講談社）、園芸福祉入門、栽培植物の自然史 I, II

その都度紹介する

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

問題提起と発表・討論（100%）。発表の解りやすさ、着想、討論の進め方を参考にして評価する

◆その他受講上の注意事項

討論の資料を十分に吟味して、準備すること